

平成22年度第1回 山口県教育振興推進会議（概要）

1 日 時 平成22年11月15日（月）10:00～12:00

2 場 所 教育委員会室

3 概 要

議事1 今後の県立高校に期待される教育について

■事務局説明

協議資料1に基づき事務局より説明

■意見交換

- ものづくりに力を入れている国しか豊かな国になっていかない。我が国は中小企業といわれる企業が大半を占めているが、そうした企業には世界的な技術をもった企業がたくさんある。そういった意味で、ものづくりに力を入れ、こうした分野の人材を育成する視点の教育に力を入れていくことが必要。
- 感性豊かな子ども、心豊かな子どもを育てていかなければいけない。高校教育には、こうした面での教育に力を入れることも必要。
- 単位制や中高一貫教育など、新しいタイプでの高校教育を進める上では、教員にとってはカリキュラム開発力、構成力が重要となる。我が国は学習指導要領に基づいた教科書に沿って授業を行うため、教員に授業を構成する力は備わっているが、単位制や中高一貫などの高校では、どういうカリキュラムで教育を行うかを準備する力が必要。こうした力を付けるために、教員研修やモデルとなる学校を指定して研究するなどの取組を行うことも必要。
また、こうしたカリキュラムを県立高校の教育で展開したいから、こういう高校を作るといって再編整備を進めることも必要。学校の小規模化ということにこだわることなく、こういうカリキュラムを提供したいから再編統合するといった視点も必要。
- 単位制や総合学科、中高一貫等があるが、こうした学校の卒業生が現在どういう状況にあるのか追跡的なデータがあるとよい。
- どういう高校が必要かと考えたとき、多様な生徒が入学している現状にあって、多様なタイプの高校をつくっていることは評価できるが、今後の展開を考えたときは、こうした新しいタイプの高校の卒業生の状況や募集状況などをよく分析し、課題を見出し検討することが必要。
- 親の立場としては、高校では社会に出て自立して生きていく力をつけていくことが重要。学力だけでなく、小・中学校とも連携して社会性を身に付けさせていくことが大切。
- 社会の中で自立して生きていける人間性を育てることを基本において、その上で個性を伸ばしていく教育が大切。

- 幼児期から挨拶や返事などの基本的な教育は行われるが、こうしたことは社会生活を送る上での基本であり、小・中学校はもとより高校においても道德教育の中などで一貫して基本的な社会習慣を身に付けさせる教育を行うことは必要。
- 県立高校には、豊かな心や健やかな体の育成と並んで、学力の向上に力を入れて欲しい。最近の子どもの勉強時間は少なくなっている。社会の厳しさや努力することの大切さを学ぶことが必要。そのために、行政側には高校においても少人数学級を実現するなどの環境整備面の努力も必要。学力に応じた指導の充実を図るだけでなく、国の発展のためにも学力の高い生徒をさらに伸ばすことも必要。
- 定時制や通信制など在籍者数が伸びている部分がある。現実には様々な学習歴をもった生徒が多く入学している面もあり、あり方を検討することも必要。
- 新しい学習指導要領では、道德教育や体験活動なども含め、様々な部分での教育の充実が改善事項とされている。もちろん必要なことであるが、幼稚園、小学校、中学校、高校という長いスパンでの教育を考えたとき、本県の高校ではどこに主眼をおいた教育を展開するのかを考えることが大切。
- 基本的な生活習慣、基礎的な学力、自分の興味・関心を生かすという3つの内容については、大学も含めて幼・小・中・高・大すべての段階で取り組まれている。こうした中で高校段階では、この3つの内容にどう取り組むのかという視点で検討することが重要。
- 学校だけの力ですべての教育はできない。地域や経営者、PTAなど多くの人を巻き込んでそれぞれの力を生かしながら分担して学校を支えることが必要。そうした意味ではコミュニティスクールが一番よいと思うので、コミュニティスクールの成功事例をたくさん作っていくことが必要。

議事2 教育委員会の事務の管理及び執行状況に係る点検・評価について

■事務局説明

協議資料2に基づき事務局より説明

■意見交換

- 夢チャレンジ指標の評価は、数値による量的評価であり、数値そのものを評価することに意味があるものもあるが、内容や中身を評価した方がよいものもあり、指標の状況に応じて柔軟な運用を図ることも必要。
例えば、「学校で芸術の鑑賞を行った児童生徒の割合」については、鑑賞によって児童生徒がどう受け止めたかが重要であるし、「授業研究を伴う校内研修を実施している割合」については、校内研修の内容など、その中身が重要。特に、目標値を100%としている指標については、中身を評価した方がよいものが多いと感じる。
- テレビ家庭教育番組「はつらつ山口っ子」の視聴率が低下しており、内容の充実、見直しが必要とされている。確かに視聴率という面から見ると、他局の番組とのかねあい等様々な事情があり厳しい現実があるが、今年度からは、月1回第3日曜日の放映と減少しており、家庭教育の充実に向けては、放映回数も含め、内容的、中身的に充実していくことが重要。

- 家庭教育番組の視聴率の低下というひとつを見ても、親の意識が薄れてきていると感じる。PTA活動についても年々協力意識が薄れてきていると感じる。
ゆとり世代が親になっていく中で、家庭教育の充実に向けた取組は重要。
- 母親だけでなく、「おやじの会」への参加など、地域を巻き込んだ取組が大切。
- 「子ども元気創造推進プロジェクト」に、幼保・小連携や読書、食育などが位置づけられているが、幼児期からこうした取組を行うことは重要であり、充実させることも必要。
- 「学校図書館図書標準を達成している学校の割合」が全国平均を大きく下回っており、新学習指導要領でも言語活動や伝統文化に関する教育の充実が求められる中、喫緊の課題として改善することが必要。
- 能力を高めていくためには、読み・書き・そろばんが大事。特に読書は重要であり、自分は良書を読ませることを実践している。人生の青春は40, 50歳代であり、ここで豊かな人生が送れるよう、学校、家庭、地域が連携して取り組むことが重要。
- 安心・安全という側面からは、物理的な教育環境の面からの評価が中心であるが、学校における子どもたちの心理的な面での安心・安全という観点からの評価も必要。
- 点検・評価の項目を細分化すればするほど、大変な業務量になる。既存のデータを活用するなど効率的な実施が必要。